

## ESQUIRE

ある日、清々しい空気をまとった精悍な男の客。  
彼はこの店のショーウィンドーに並んでいるエスカイヤーの革製品に、驚いてはいつてきたという。  
彼はドイツで馬術の勉強をしていた。20年前、彼が馬術留学を終えて、ドイツから日本へ帰る時、その記念に一台の将校靴を買おうと思った。  
その靴を買った店には、このエスカイヤーのほかにもうひとつ日本でも有名なブランドの靴があり、どちらにしようか迷った。彼は当時エスカイヤーの名を知らなかった。  
そんな彼を見て、店の人が、「エスカイヤーをおつかいなさいと」迷わず奨めてくれて、エスカイヤーを選んだという。

それから20年。使うほどに愛着が出るその将校靴は、しなやかで新しいときにはなかった風格が出てきたという。  
今もお気に入り大切に使っているという。  
ドイツでしか見ることがなかった革製品の名品エスカイヤーが富山の小さな洋品店にある。  
それで、驚いてはいつてきたのだという。

エスカイヤーは、日本のブランドブームには乗らなかった。  
なぜなら、彼らは自分たちの生産量以上の数を作れない。  
私たちはそこにエスカイヤーの良心を感じるのです。  
それは、丁寧に鞣された革やその縫製にみるごとく、人間のために革を提供してくれた生命への深い感謝に尽きるように思えるのです。  
ちなみに、その青年は、富山の馬術競技会で優勝していた。

**天下堂洋品店**

**同品は岩瀬富山港店「コモン天下堂」にございます。**